

仕様書

再生可能エネルギー部

1. 件 名： (大項目) 太陽光発電導入拡大等技術開発事業
(中項目) 動向調査研究
(小項目) 太陽光発電システムにおける国際技術協力プログラムに関する
総合調査

2. 研究開発の目的及び内容

地球温暖化問題への関心の高まりから、世界では主要国を中心に 2050 年までのカーボンニュートラル実現を表明している。日本も 2020 年 10 月に 2050 年カーボンニュートラル宣言を発表し、2030 年度には温室効果ガスを 2013 年度から 46%削減することを目指している。カーボンニュートラル実現のためには、再生可能エネルギーの導入が欠かせず、中でも太陽光発電は、他の再生可能エネルギーに比べ、発電コストが安価であること、計画から運転開始までのリードタイムが短いこと、太陽電池モジュールの設置枚数等で設備の規模を比較的柔軟に設計できることなどから、太陽光発電に寄せられる期待は年々大きくなっている。

2025 年 2 月 18 日に閣議決定された第 7 次エネルギー基本計画では、再生可能エネルギーを主力電源として最大限導入する目標を掲げており、その中でも太陽光発電は 2040 年度の電源構成の見通しにおいて 23～29%を占めるとされている。

これらの課題を踏まえた上で、太陽光発電の導入を進めるため、技術や市場の動向及び普及に関わる国内外の動向などの最新データを常に把握し、それらを的確に技術開発へフィードバックしていくこと目指し、国際エネルギー機関（IEA）の太陽光発電システム研究協力実施協定（PVPS）※に参画し、情報交換を行う。

※IEA PVPS は、IEA の枠組みにおける技術協力プログラム（TCP）の一つであり、1993

年の設立以来、PVPS の加盟国・機関は太陽光発電の応用に関するさまざまな共同プロジェクトを実施している。日本代表者として NEDO は本プログラムに参画している。

具体的には、PVPS に関連する活動に参画し、国際協力活動を通じて太陽光発電の普及・促進に向けた諸外国の技術開発動向や政策動向、市場動向等を調査・分析し、結果をタイムリーに発信する。調査内容は以下のとおり。

- ①Task1（太陽光発電の戦略的分析及び情報交換）、Task12（太陽光発電の持続可能性）、Task17（運輸部門における太陽光発電）の国際協力活動への参加による情報収集
- ②IEA PVPS の成果物の日本語版作成（SnapShot Report 等）
- ③国内外での IEA PVPS ワークショップの開催及び成果の普及
- ④IEA PVPS 活動に関わる日本の太陽光発電に関する調査報告書の作成（National Survey Report（データ提出））

3. 研究開発期間

NEDO の指示する日から 2028 年 3 月 31 日

4. 中間年報、成果報告書の提出

中間年報、成果報告書の電子ファイル一式を、所定の期日までにNEDOプロジェクトマネジメントシステムで提出すること。

5. その他重要事項

委託期間中あるいは委託期間終了後に、成果報告会（年 1 回程度想定）等における報告を求めることがある。